



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月31日

上場会社名 因幡電機産業株式会社
 コード番号 9934 URL <https://www.inaba.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画室長
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 喜多 肇一
 (氏名) 玉垣 雅之
 TEL 06-4391-1781

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	201,517	4.2	11,602	7.8	12,458	13.7	8,714	9.1
2021年3月期第3四半期	193,420	△7.4	10,766	△12.2	10,952	△12.5	7,990	△4.6

(注)包括利益 2022年3月期第3四半期 8,916百万円 (△8.0%) 2021年3月期第3四半期 9,695百万円 (4.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	156.23	155.11
2021年3月期第3四半期	143.50	142.69

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	216,905	139,251	63.8
2021年3月期	219,500	135,689	61.5

(参考)自己資本 2022年3月期第3四半期 138,485百万円 2021年3月期 134,972百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	50.00	—	50.00	100.00
2022年3月期	—	50.00	—		
2022年3月期(予想)				50.00	100.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	268,500	△3.2	15,500	0.3	16,000	1.2	11,000	△2.9	197.68

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2022年3月期の期首より、企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」等を適用することにより、売上高の予想が2021年3月期比で減少しておりますが、この影響額は約△150億円であり、2021年3月期と同様の基準とした場合は増収計画となっております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	56,419,000 株	2021年3月期	56,419,000 株
2022年3月期3Q	685,881 株	2021年3月期	773,469 株
2022年3月期3Q	55,778,012 株	2021年3月期3Q	55,684,424 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(2)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(四半期連結損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、年度前半にかけて新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴う断続的な緊急事態宣言の発出などにより個人消費や企業活動が抑制され、厳しい状況が続きました。第3四半期は新規感染者数が大幅に減少したことから経済活動正常化に向けた動きが見られたものの、新たな変異株への懸念から緩やかな回復に留まりました。

当社グループの係わる電設資材業界は、建築着工や企業の設備投資が持ち直すなど上向きの兆しが見られました。また、自社製品の係わる空調業界は、巣ごもり需要が一巡したことなどからルームエアコンの出荷（国内720万台 前年同期比9.1%減）は伸び悩みました。

このような情勢のなか、当社グループは中長期的な経営戦略に沿って、重点施策を着実に推進するとともに、積極的な営業活動を展開しました。

その結果、売上高は2,015億17百万円（前年同期比4.2%増）、営業利益は116億2百万円（前年同期比7.8%増）、経常利益は124億58百万円（前年同期比13.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は87億14百万円（前年同期比9.1%増）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を適用したことにより、従来の会計処理方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の売上高は151億1百万円減少、営業利益は3億27百万円減少、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ46百万円減少しております。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<電設資材事業>

首都圏再開発やデータセンターなどの大型物件に対し受配電設備や防災設備の納入があったことや、前期落ち込みの反動から電設資材全般の販売が増加したことに加え、銅価格の高騰により電線ケーブル類の販売価格が上昇しました。その結果、収益認識会計基準等の影響を除いた実質の前年同期比は増収となりましたが、収益認識会計基準等の適用により、売上高が146億66百万円減少し、売上高1,291億22百万円（前年同期比1.6%減）となりました。

<産業機器事業>

旺盛なデジタル関連需要や自動車業界の回復などを背景に半導体関連向けの販売が好調であったほか、製造業を中心とした設備投資の持ち直しにより、制御機器及び電子部品の販売が増加した結果、売上高249億36百万円（前年同期比22.9%増）となりました。収益認識会計基準等の適用により、売上高が1億12百万円減少しております。

<自社製品事業>

ルームエアコンの出荷が伸び悩んだものの、換気ニーズの高まりによる高機能エアコンの需要は継続していることに加え、政府の熱中症対策による学校体育館への空調設置案件等への納入があったことで、空調配管化粧カバー「スリムダクトシリーズ」などの販売が堅調だったほか、原材料価格の高騰を受け被覆銅管やスリムダクトシリーズ等の価格改定を実施した結果、売上高474億58百万円（前年同期比13.2%増）となりました。収益認識会計基準等の適用により、売上高が3億22百万円減少しております。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の業績予想につきましては、現時点において2021年5月14日公表の業績予想から変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	75,015	68,337
受取手形及び売掛金	68,902	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	56,363
電子記録債権	17,560	24,481
商品及び製品	12,454	18,602
仕掛品	255	236
原材料及び貯蔵品	1,567	2,273
その他	1,228	2,608
貸倒引当金	△26	△24
流動資産合計	176,957	172,879
固定資産		
有形固定資産		
土地	14,101	14,103
その他(純額)	7,614	7,395
有形固定資産合計	21,715	21,499
無形固定資産		
1,233	1,233	1,456
投資その他の資産		
投資有価証券	17,691	18,376
その他	1,912	2,694
貸倒引当金	△10	△0
投資その他の資産合計	19,593	21,070
固定資産合計	42,542	44,026
資産合計	219,500	216,905
負債の部		
流動負債		
買掛金	63,653	57,041
電子記録債務	4,868	5,263
短期借入金	344	330
未払法人税等	2,430	1,717
賞与引当金	2,904	3,302
役員賞与引当金	160	78
製品保証引当金	107	107
その他	3,199	3,477
流動負債合計	77,668	71,317
固定負債		
退職給付に係る負債	49	48
その他	6,093	6,287
固定負債合計	6,142	6,336
負債合計	83,810	77,653

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,962	13,962
資本剰余金	14,171	14,171
利益剰余金	102,694	105,835
自己株式	△1,920	△1,750
株主資本合計	128,908	132,219
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,862	6,056
為替換算調整勘定	200	209
その他の包括利益累計額合計	6,063	6,265
新株予約権	717	766
純資産合計	135,689	139,251
負債純資産合計	219,500	216,905

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	193,420	201,517
売上原価	161,735	166,676
売上総利益	31,684	34,840
販売費及び一般管理費	20,918	23,237
営業利益	10,766	11,602
営業外収益		
受取利息	32	33
受取配当金	376	653
仕入割引	702	—
その他	205	250
営業外収益合計	1,316	937
営業外費用		
支払利息	8	9
売上割引	926	—
その他	195	72
営業外費用合計	1,129	81
経常利益	10,952	12,458
特別利益		
関係会社株式売却益	—	151
固定資産売却益	2	1
投資有価証券売却益	1,020	—
特別利益合計	1,023	153
特別損失		
固定資産除却損	7	23
固定資産売却損	0	1
新型コロナウイルス対策費用	233	—
特別損失合計	242	25
税金等調整前四半期純利益	11,733	12,586
法人税、住民税及び事業税	2,469	3,878
法人税等調整額	1,274	△6
法人税等合計	3,743	3,872
四半期純利益	7,990	8,714
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,990	8,714

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	7,990	8,714
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,802	193
為替換算調整勘定	△97	8
その他の包括利益合計	1,704	202
四半期包括利益	9,695	8,916

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年11月29日開催の取締役会決議に基づき、自己株式256,800株の取得を実施し、当第3四半期連結累計期間において自己株式が685百万円増加しております。

また、ストック・オプションの行使による自己株式344,400株の処分に伴い、当第3四半期連結累計期間において自己株式が855百万円減少しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が1,750百万円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

①代理人取引に係る収益認識

顧客への商品の提供における当社の役割が代理人に該当する取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客から受け取る額から商品の仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

②同一の顧客と複数の契約を締結している取引に係る収益認識

同一の顧客と複数の契約を締結している場合について、従来は個々の契約単位で収益を認識しておりましたが、各契約の締結時期や各契約における対価の相互依存性等を評価し、関連する契約を結合したうえで収益を認識する方法に変更しております。

③変動対価が含まれる取引に係る収益認識等

リベート及び売上割引について、従来はそれぞれ売上原価及び営業外費用に計上しておりましたが、顧客との契約において約束された対価からリベート及び売上割引の見積金額を控除する方法に変更しております。また、仕入割引については、従来は営業外収益に計上しておりましたが、仕入から控除して処理しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は15,101百万円減少、売上原価は14,774百万円減少、営業利益は327百万円減少、営業外収益は765百万円減少、営業外費用は1,045百万円減少、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ46百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は25百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。

なお、これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

新型コロナウイルス対策費用

前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言に基づく政府、自治体からの要請を受け、職場での「三つの密(密閉、密集、密接)」を回避するための臨時対応として、新たに短期間の契約をしたサテライトオフィスの賃借料等であります。なお、当該契約は2020年10月31日をもって解約しております。

当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書計 上額(注) 2
	電設資材事業	産業機器事業	自社製品事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	131,197	20,294	41,927	193,420	-	193,420
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,437	487	2,713	4,638	△4,638	-
計	132,635	20,782	44,641	198,059	△4,638	193,420
セグメント利益	3,170	519	8,359	12,049	△315	11,733

(注) 1. セグメント利益の調整額△315百万円には、セグメント間取引消去93百万円、報告セグメントに配分していない全社損益△424百万円及びその他の調整額14百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費、営業外損益及び特別損益であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書計 上額(注) 2
	電設資材事業	産業機器事業	自社製品事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	129,122	24,936	47,458	201,517	-	201,517
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,860	616	2,995	5,472	△5,472	-
計	130,982	25,552	50,453	206,989	△5,472	201,517
セグメント利益	4,030	966	10,024	15,022	△2,436	12,586

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,436百万円には、セグメント間取引消去65百万円、報告セグメントに配分していない全社損益△2,237百万円及びその他の調整額△264百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない売上原価、一般管理費、営業外損益及び特別損益であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の外部顧客への売上高が、それぞれ「電設資材事業」で14,666百万円、「産業機器事業」で112百万円、「自社製品事業」で322百万円減少し、セグメント利益が、それぞれ「電設資材事業」で41百万円、「産業機器事業」で0百万円、「自社製品事業」で4百万円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。